

学校概要

創立 39 周年	学校長 藤馬 直子	副校長 山本 佐知子	学期 2 学期制	児童・生徒数 591 人
学級数 一般級: 18 個別支援級: 3		主な関係校: あざみ野中学校		

学校教育目標

お互いを認め合い 夢や希望の実現に向けて努力する子 キャッチフレーズ「夢いっぱい あざいちっ子」
 ○学ぶ楽しさを実感し、学びの質を高めていく子を育てます。《知》
 ○一人ひとりのよさを認め合える豊かな心を育てます。《徳》
 ○心と体を鍛え、自他の生命を大切にすることを育てます。《体》
 ○まちの人とのつながりを大切に、力を合わせてがんばる子を育てます。《公》
 ○社会の変化に対応できるしなやかな感性をもった子を育てます。《開》

学校の特徴

- 学校敷地内に、「ワイワイランド」を所有し、古くからの地域も共存する学校であり、生活科や『横浜の時間』に活用できる材が豊富である。
- 仕事に対して熱心な職員が多く、チーム意識が高く、学ぶ姿勢が生まれている。
- 教科担当制を取り入れていることで、全児童を全職員で育てる意識が高い。
- 基礎・基本の理解は概ねできているが、学習状況にばらつきがあるため、指導方法を工夫する必要がある。
- 教職員間で共有したことを、児童が共通行動に移していくための、教職員の指導力を高める必要がある。
- 保護者・地域との結びつきがやや薄いため、学校から協力を働きかける必要がある。

学校経営中期取組目標

「あ」かるい笑顔の子どもを育てます。・かけがえのない存在である児童一人ひとりが、心身ともに健康で安心して楽しく過ごせる学校づくりに努める。
 「ざ」フラワー&ミュージックで子どもの心を育てます。・豊かな心や感性を育み、明るさと優しさにあふれる温かな学校づくりに努める。
 「い」きいきと学ぶ子どもを育てます。・子ども達に確かな学力を身につけ、子どもたちの夢が生まれ、夢をふくらませる学校づくりに努める。
 「ち」いきとともに、力を合わせてがんばる子どもを育てます。・家庭・地域との連携を深め、地域の教育力を生かし地域に開かれた学校づくり、地域から信頼される学校づくりに努める。

小中一貫教育の取組

あざみ野中学校 <small>あざみ野中学校</small> すすき野中学校	ブロック : あざみ野中・すすき野中・あざみ野第一小・あざみ野第二小・荏子田小・黒須田小・嶮山小・すすき野小
9年間で育てる子ども像	人とのつながりを大切にする子 ～地域を愛し、あいさつできる子～
自校の具体的取組	・小中合同授業研究会を実施し授業改善を図り、子どもたちの学力を向上させていきます。 ・児童生徒指導上の共通理解を深め、課題解決のための取組を、地域とも連携して進めていきます。 ・小中、小小間の交流活動を積極的に行い、児童生徒・職員間の連携をより深めていきます。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	協働的な思考を高めるため、教材研究や指導の工夫をし、「分かる楽しさ」を実感できる授業を行う。	①友達の考えを聞き、その思いをふまえて、自分の考えを発表できるようにする。 ②ねらいに合わせて学習形態を工夫し、学びの質を高める。 ③児童の思考を深めたり、理解を促したりするために、教材教具の開発や板書・掲示計画をするなどし、習熟にあった指導を工夫して行う。
豊かな心	よりよい人間関係を築いていこうとする姿を価値付けるとともに、自尊感情を育て、自分や相手を大切にすることを育てる。	①カリキュラムに位置づいた道徳科の充実を図るとともに、子どもの日常的な学校生活の中で道徳教育を推進していく。 ②気持ちのよいあいさつをすることを励まし、相手とのつながりを意識するように指導する。 ③学級活動において、自己有用感を得られる活動を、児童の実態に応じて意図的・計画的に行う。
健やかな体	運動する量と質を高めるとともに、健康教育の充実を図る。	①体育科の授業において、基本となるウォーミングアップの仕方を身に付けて、進んで運動前の心と体の準備ができるようにする。 ②年間2回の学校保健委員会を中心に、継続して健康教育に取り組む。
児童生徒指導	全職員が「あざいちスタンダード」のねらいを共有して指導し、全児童が笑顔で楽しく学校生活を過ごすことができるよう、全職員で全児童を育てていく。	①児童支援専任を中心に職員間で連携し、「あざいちスタンダード」のねらいや約束を共有して、全職員が全児童を指導する。②「あざいちスタンダード」を定期的に見直し、実態に即したものにしていける。③児童の心の動きをとらえるため、V/Pアセスメントシートやアンケートで確認する。④学級開き研修や児童理解研修、横浜プログラムの活用研修を行い、学年・学級運営の充実を図る。
特別支援教育	ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境の整備や、授業の工夫をする。	①刺激の少ない黒板周りやねらいがはっきりした板書計画など特別支援教育の視点を意識して、学級経営や授業を行う。②ユニバーサルデザインの視点に立った授業の工夫、特別支援研修を行い、どの児童も落ち着いて安心して学習できるようにする。③配慮を要する児童の理解、支援計画を全職員で共有すると共に、保護者と連携しながら進めていく。④支援を要する児童に寄り添い、取り出しをしったりクールダウンの場を確保したりする。
地域連携	学校・地域コーディネーターと協働して開かれた学校づくりに努め、まち憩、学校関係者評価委員会等の評価や情報を活かしながら学校運営を進める。	①学校が主体となり、あざいちサポーターズと連携して地域の材を活用し、様々な学年を通して、『横浜の時間』の充実を図る。②畑や田んぼなどの栽培活動を行い、子どもが体験を通じた学びや達成感を得られるようにする。③新1年生の学校生活のスタートがスムーズにできるように幼稚園・保育園との連携を進めると共に、様々な学年と一緒に活動していく機会を設ける。
いじめへの対応	児童の人権感覚を磨くとともに、いじめ根絶・迅速な解決に向けて全職員で取り組む。	①毎月、いじめ防止対策委員会を開催し、全職員でいじめ根絶に向けて取り組んでいく。②児童の様子をしっかりと観察し、いじめの疑いがあった時は迅速にチームで解決していく。③いじめ防止基本方針を全職員で共有し、1月に見直しをする。④日常的な道徳教育や人権キャラバンを実施し、自らの考えを深めたり、人権感覚を磨いたりする学習を用意する。⑤「横浜子ども会議」の参加を通して学んだこと等を児童の主体的な取組や活動の充実につなげる。

人材育成・組織運営	職員の専門性を高め、メンター・ミドル・ベテランがそれぞれの役割を果たし、主体的に学校運営に参画する。	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルやベテランが講師となって授業力、指導力の向上を図る。②ミドルのメンバーが3委員会や特設委員会において中心となる役割をもち、積極的に学校運営に携わる意識を高め、ミドルリーダーの育成を図る。③毎月、学年主任会を行い、ベテランとミドルが全体を見通して学校運営をしていく場を設定する。
担当	教務部	